

もし、授業中、私たちが、次のような状況になったら、
どう感じるでしょうか？



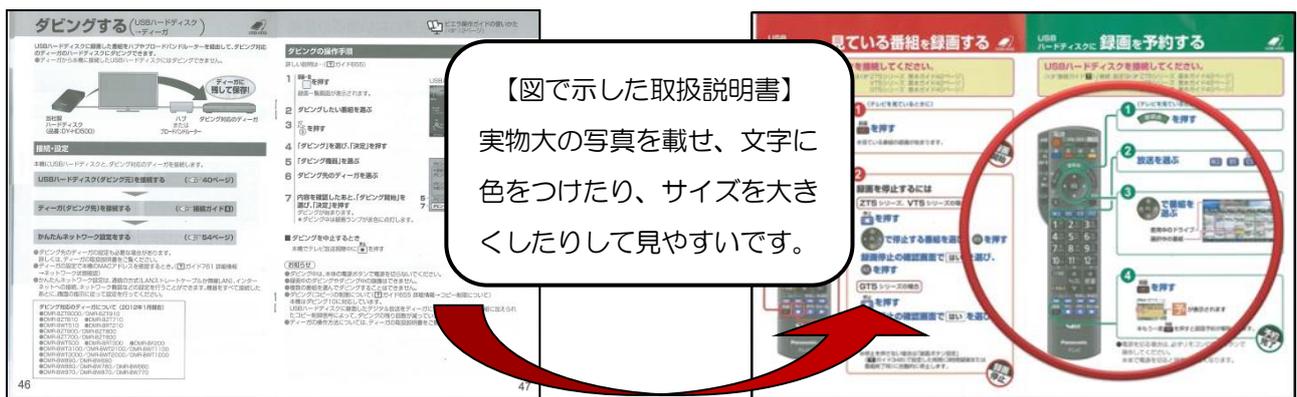
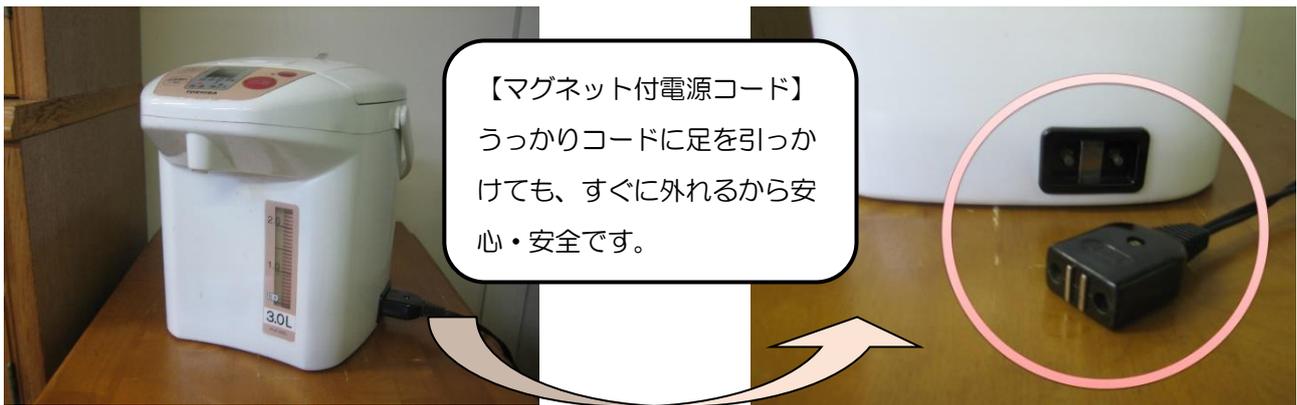
- ▲突然、学習を外国語で教えられたら・・・
- ▲終わりのない行動を強いられたら・・・
- ▲自分の行動をいちいち否定されたら・・・
- ▲雑音の中で学習することを強いられたら・・・
- ▲いっぺんに多くの指示をされたら・・・
- ▲ものすごくしたいことが別にあったら・・・
- ▲できないことを馬鹿にされたら・・・



だれしも、心が固まってしまうます。

これは極端な例ですが、普段の生活の中で、だれしもうまく馴染めなかつたり、苦手だと感じたりするもの（こと）があります。人それぞれ「困り感」をもって生活しています。そんな困り感を減らし、「自分もわかる（できる）」気持ちにさせてくれるのが、特別支援教育です。特別支援教育の中で大切にされているのが、「授業のユニバーサルデザイン化」です。

身近な生活の中で、「ユニバーサルデザイン」を考えてみましょう。



これらは、だれもがあると便利でわかりやすいものです。社会の中で、多くの人が感じる不安や負担を軽減できると、もっと生活しやすくなると思います。

学校生活におきかえると、子どもが感じる不安や負担を軽減できることが、まだまだあるように思います。特別支援教育は、子ども理解が支援の第一歩です。「何がわかって、何がわからないのか」「何が好きで、何が苦手なのか」など、子ども理解を通して、どの子にとっても、わかる・できる・楽しい授業を実現させていきたいです。

半田中学校の授業は、「We Love 半中生、アップデート」を目指します。